



Social Capital and Health in Malaria-prevalent Areas of the Solomon Islands

Uchiyama, Hachiro

(Degree)

博士 (医学)

(Date of Degree)

2012-03-25

(Date of Publication)

2012-09-05

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲5435

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005435>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



(課程博士関係)

学位論文の内容要旨

Social Capital and Health in Malaria-prevalent Areas of the Solomon Islands

ソロモン諸島のマラリア流行地域における社会関係資本と健康の解析

神戸大学大学院医学系研究科医科学専攻

感染制御学

(指導教員： 川端真人 教授)

内山八郎

はじめに

近年、健康と社会関係資本への関心が高まっている。社会関係資本という概念の原型は19世紀末のE.デュルケムによる研究に見出すことができる。しかし、社会関係資本という概念が持つ重要性の社会的な認知に最も貢献したのはR. パットナムである。パットナムによると社会関係資本とは社会の中における個人間の繋がりであり、この結びつきが互酬性や信頼の基礎になっていると提唱している。パットナムによると、社会関係資本は横型と縦型に分類することが可能であり、前者は等質的で同様な特徴を持った個人間の結びつきを示し、後者は異質的で社会的立場といった社会経済指標において異なる個人間を橋渡しする機能を持っている。前者は比較的小さな地域の住民間の繋がりに該当し、後者は地域住民と地方自治体や国家との関係等を示すと考えられる。近年、この社会関係資本という概念が公衆衛生学、国際保健学、疫学といった医療分野においても注目されるようになってきた。代表的な研究に、カワチやリンドストロームらの調査が挙げられる。多くの研究では社会関係資本と生活習慣病の関係を先進国の人口を対象として解析を行っているが、本研究では社会関係資本と自己評価による健康状態とマラリア感染に焦点を絞り、一途上国の人口を対象に解析を行った。

対象と方法

対象：本研究では2007年にソロモン諸島で行ったアンケート調査の結果を用いて、健康、マラリア感染、社会関係資本に焦点を絞り解析を行った。対象となったのはホニアラ、タンガラレ、テテレというソロモン諸島の中でもマラリア流行区域とされる地域の住民 (N = 613) である。

解析方法：当研究では3つのモデルを用い、社会関係資本と自己評価による健康状態、及びマラリア感染、健康に関わる行動・態度との関係を解析した。モデル1では、個々の社会関係資本の構成要素と自己評価による健康状態による健康状態の関連を研究した。このモデルでは11項目に及ぶ横の社会関係資本構成要素及び4つの縦の社会関係資本構成要素を個々に用いて、それぞれの社会関係資本構成要素と回答者自身による健康状態の評価との関係をオッズ比を用いて解析を行った。モデル2では自己評価による健康状態に加え、

一年内のマラリア感染歴という指標を活用した。これら二つの項目を組み合わせて「健康」という指標の作成を行い、健康状態が比較的良好な群と、そうでない群によって構成される2つの群に分けた。この指標と一年内のマラリア感染歴及び自己評価による健康状態のデータを用いて、社会関係資本の個々の構成要素との関係を解析した。最後に、モデル3では三つの社会関係資本のコンポジット（複合）指標と「健康」、そして健康に関わる行動・態度との関係を探索した。ここで用いたコンポジット指標とはモデル1とモデル2で用いた11の横の社会関係資本構成要素と4項目からなる縦の社会関係資本構成要素から、それぞれの回答者の社会関係資本のレベルをランク付けしたランク指標であり、後にこの指標を用い、社会関係資本が高い群と相対的に低い群とに分け、これらと健康指標及び健康に関連する行動・態度との関係を解析した。

結果

結果は以下の通りであった。モデル1では、縦の社会関係資本に分類される三つの項目と「自己評価による健康状態」の間に有意な関係が見られた。具体的には「マラリアの診断・治療への満足」（OR: 2.494; CI: 1.280-4.860）、「マラリア診療施設の開業時間への満足」（OR: 2.440; CI: 1.355-4.396）、「診療施設への信頼」（OR: 2.017; CI: 1.136-3.579）がこれに該当する。その一方でモデル2では、横の社会関係資本に分類される四つの項目が「健康」との間に有意な関係を示した。「家族、親戚、友人、知人に感謝された」（OR: 4.510; CI: 1.065-19.098）、「教会への献金」（OR: 2.256; CI: 1.293-3.937）、「困ったときに相談する隣人の存在」（OR: 2.229; CI: 1.292-3.845）、「見知らぬ他人に助けられた」（OR: 0.611; CI: 0.391-0.952）が有意性を示した項目である。本研究で最も包括的な社会関係資本の指標を用いたモデル3では、横の社会関係資本と「健康」（OR: 1.695; CI: 1.158-2.480）及び一年内のマラリア感染歴（OR: 1.547; CI: 1.059-2.259）、縦の社会関係資本と一年内のマラリア感染歴（OR: 2.376; CI: 1.644-3.433）、そして縦と横を併せた包括的社会関係資本と「健康」（OR: 1.876; CI: 1.114-3.159）、一年内のマラリア感染歴（OR: 1.967; CI: 1.169-3.310）、「マラリアへの恐怖感」（OR: 2.103; CI: 1.112-3.978）との間に有意な関係が見られた。

考察

本研究で行われたそれぞれのモデルが幾つかの有意な結果を示した。モデル1とモデル2の結果を比較すると、健康指標に一年内のマラリア感染歴を含有する事によって、有意な関係を示す項目に変化がみられた。一年内のマラリア感染歴を健康指標に含まないモデル1では3つの縦の社会関係資本項目と有意な関係が見られ、マラリア感染を「健康」指標に含むモデル2では、4つの横の社会関係資本を構成する項目との間に有意性が見られた。この事から地域の均質的仲間との横の繋がりが、マラリア感染の予防に役立つ有効な情報共有等にも貢献しているのではないかと推測される。また、モデル2の結果から必ずしも社会関係資本の構成要素の全てが健康を促進する方向で関係を示すとは限らないという事が明らかになった。具体的には「見知らぬ他人に助けられた」は社会関係資本の構成要素であるが、本調査の結果では健康指標が高い人は助けられたと答える確率が低い事が示唆された。この傾向は、健康指標が低い人ほど助けを必要とし、健康指標が高い人ほど他人を助ける余裕があるという事に起因しているのではないかと考えられる。本調査で特筆すべき事項として、モデル3という最も広範囲に及ぶ指標を用いたモデルにおいて、横の社会関係資本と縦の社会関係資本のそれぞれがマラリア感染と有意な結果を示した事が挙げられる。また縦と横を併せた社会関係資本もマラリア感染との間に有意な関係を示した。これらの結果から特にマラリア感染の予防に必要な資源が不足している地域では、社会関係資本の強化が罹患削減に貢献する重要な一因になり得るのではないかと考えられる。今後行われる研究によって、健康と社会関係資本の関係が定量的に、より明瞭化される事が期待される。

論文審査の結果の要旨			
受付番号	甲 第2248号	氏名	内山 八郎
論文題目 Title of Dissertation	Social Capital and Health in Malaria-prevalent Areas of the Solomon Islands ソロモン諸島のマラリア流行地域における社会関係資本と健康の 解析		
審査委員 Examiner	主 査 西尾久英 Chief Examiner 副 査 林 祥剛 Vice-examiner 副 査 平井みどり Vice-examiner		

(要旨は1,000字～2,000字程度)

要 旨

健康と社会関係資本への関心が近年高まっている。社会関係資本という概念の原型は19世紀末のEデュルケムによる研究に見出すことができる。しかし、今日、社会関係資本という概念が持つ重要性の普及に最も貢献したのはRパットナムである。パットナムによると社会関係資本とは社会の中における個人間の繋がりであり、この繋がりが互酬性や信頼の基礎になっていると提唱している。パットナムによると、社会関係資本は横型と縦型に分類することが可能であり、前者は等質的で同様な特徴を持った個人間の結びつきを示し、後者は異質的で社会的立場等において異なる個人間を橋渡する機能を持っている。前者は比較的小さな地域の住民間の繋がりに該当し、後者は地域住民と地方自治体の関係等を示すと考えられる。国際保健や公衆衛生の分野における、社会関係資本を用いた研究の代表的なものに、カワチやリンドストロームらの調査が挙げられる。

本研究ではソロモン諸島のマラリア流行地域のアンケート調査結果(N=613)を用いて、健康、マラリア感染、社会関係資本に焦点を絞り解析を行った。当研究では3つのモデルを用い、社会関係資本と自己評価による健康状態、及びマラリア感染、健康に関わる行動・態度との関係をオッズ比を活用して行った。モデル1では、個々の社会関係資本の構成要素と自己評価による健康状態による健康状態の関連を研究した。モデル2では自己評価による健康状態とマラリア感染という二つの項目を組み合わせた「健康」という指標を活用し、社会関係資本の個々の構成要素との関係を解析した。最後に、モデル3では三つの社会関係資本のコンポジット（複合）指標と「健康」、そして健康に関わる行動・態度との関係を探索した。

結果は以下の通りであった。モデル1では、縦の社会関係資本に分類される三つの項目と「自己評価による健康状態」の間に有意な関係が見られた。具体的には「マラリアの診断・治療への満足」(OR: 2.494; CI: 1.280-4.860)、「マラリア診療施設の営業時間への満足」(OR: 2.440; CI: 1.355-4.396)、「診療施設への信頼」(OR: 2.017; CI: 1.136-3.579)がこれに該当する。その一方でモデル2では、横の社会関係資本に分類される四つの項目が「健康」との間に有意な関係を示した。「家族、親戚、友人、知人に感謝された」(OR: 4.510; CI: 1.065-19.098)、「教会への献金」(OR: 2.256; CI: 1.293-3.937)、「困ったときに相談する隣人の存在」(OR: 2.229; CI: 1.292-3.845)、「見知らぬ他人に助

けられた」(OR: 0.611; CI: 0.391-0.952)が有意性を示した項目である。本研究で最も包括的な社会関係資本の指標を用いたモデル3では、横の社会関係資本と「健康」(OR: 1.695; CI: 1.158-2.480)及びマラリア感染(OR: 1.547; CI: 1.059-2.259)、縦の社会関係資本とマラリア感染(OR: 2.376; CI: 1.644-3.433)、そして縦と横を併せた包括的社会関係資本と「健康」(OR: 1.876; CI: 1.114-3.159)、マラリア感染(OR: 1.967; CI: 1.169-3.310)、「マラリアへの恐怖感」(OR: 2.103; CI: 1.112-3.978)との間に有意な関係が見られた。

本研究で行われたそれぞれのモデルが幾つかの有意な結果を示した。モデル1とモデル2の結果を比較すると、健康指標にマラリア感染を含有するによって、有意な関係を示す項目に変化がみられた。マラリア感染を健康指標に明確に含まないモデル1では3つの縦の社会関係資本項目と有意な関係が見られ、マラリア感染を「健康」指標に含むモデル2では、4つの横の社会関係資本を構成する項目との間に有意性が見られた。この事から地域の均質的仲間との横の繋がりが、マラリア感染の予防に役立つ有効な情報共有等にも貢献しているのではないかと推測される。また、モデル2の結果から必ずしも社会関係の構成要素の全てが健康を促進する方向で関係を示すとは限らないという事が明らかになった。具体的には「見知らぬ他人に助けられた」は社会関係資本の構成要素であるが、本調査の結果では健康指標が高い人は助けられたと答える確率が低い事が示唆された。この傾向は、健康指標が低い人ほど助けを必要とし、健康指標が高い人ほど他人を助ける余裕があるという事に起因しているのではないかと考えられる。本調査で特筆すべき事項として、モデル3という最も広範囲に及ぶ指標を用いたモデルにおいて、横の社会関係資本と縦の社会関係資本のそれぞれがマラリア感染と有意な結果を示した事が挙げられる。また縦と横を併せた社会関係資本もマラリア感染との間に有意な関係を示した。これらの結果から特にマラリア感染の予防に必要な資源が不足している地域では、社会関係資本の強化が罹患削減に貢献する重要な一因になり得るのではないかと考えられる。今後行われる研究によって、健康と社会関係資本の関係が定量的に、より明瞭化される事が期待される。

本研究は、ソロモン諸島のマラリア流行地域において、社会関係資本が健康維持・増進、マラリア予防に関連していることを示したものであるが、従来報告のなかったソロモン諸島における社会関係資本の果たす役割について重要な知見を得たものとして価値ある集積と認める。よって、本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。